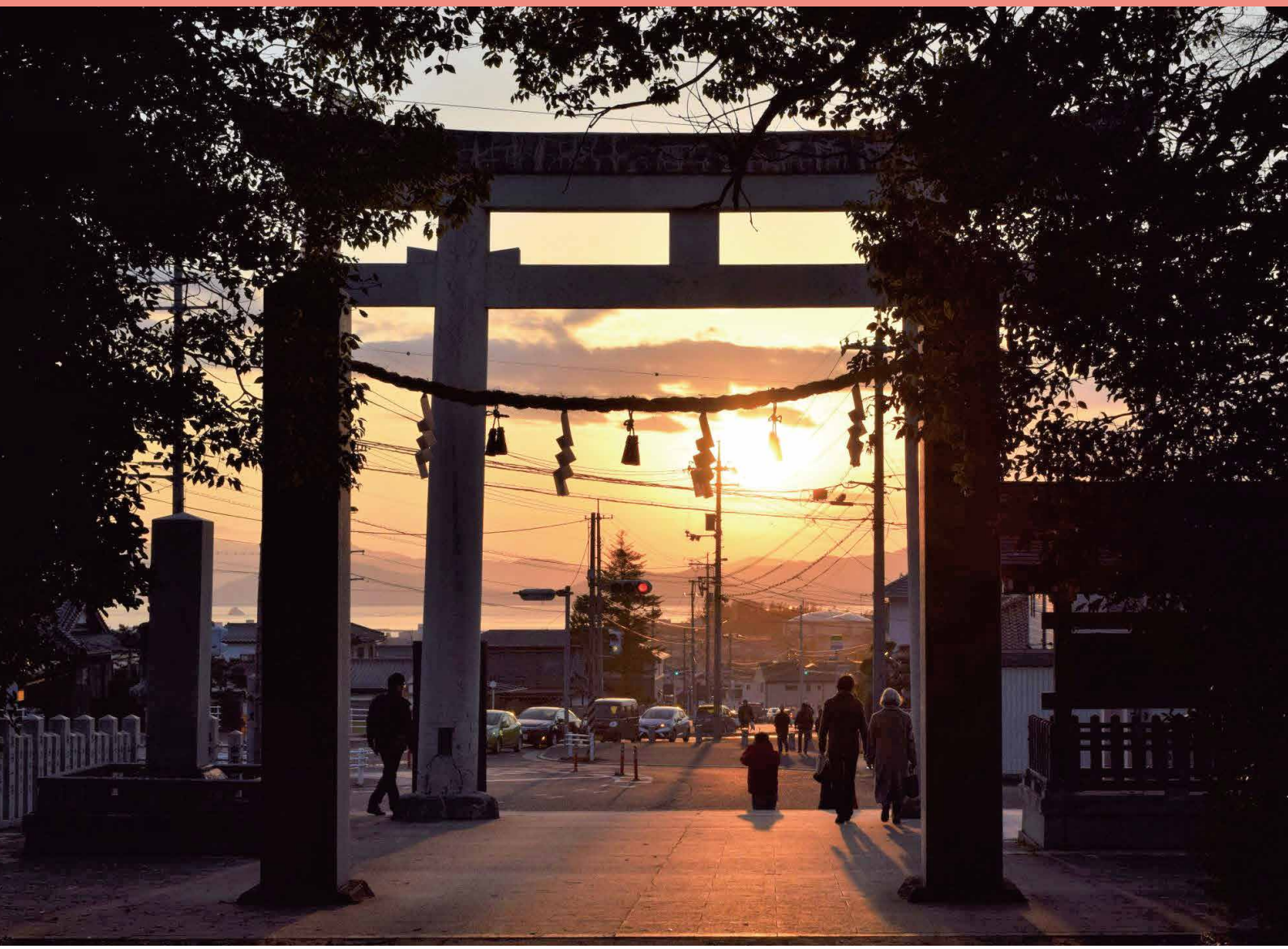
社会医療法人 清風会
法人だより

清風

冬号
2021年1月1日 vol.66



▲速谷神社からの初日の出（撮影：リハビリ技術科 谷俊六）

社会医療法人 清風会

五日市記念病院・廿日市記念病院は
（公財）日本医療機能評価機構の認定病院です

社会医療法人 清風会理事長就任のご挨拶

2020年10月1日を以って、社会医療法人清風会の理事長職を、前理事長である梶原四郎先生から私が引き継ぐことになりましたので、ご挨拶申し上げます。これまでも皆様方から多大なご支援とご指導をいただきながら当法人も現在まで成長することができましたが、これからも引き続いてのご指導、ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

1991年7月の五日市記念病院開設時点から、前理事長と共に病院づくりに努めて参りました。2000年6月からは、五日市記念病院の院長職を拝命し、開設当初からの基本方針である“脳神経外科を中心に、全身管理の出来る急性期病院”を充実させるべく邁進してきました。1999年5月には広島市佐伯区医師会の理事の一員に加えていただき、主として“救急・災害”担当理事として、そして、2008年2月からは、佐伯区医師会副会長を拝命し、2014年6月まで区医師会事業に執行部として積極的に参画させていただきました。2001年の年末から、佐伯区医師会と協同して現在実施している年末・年始定点診療を五日市記念病院で開始。その後、この共同診療を継続実施していく中で、区医師会事業として継続することについて区医師会員の賛同を得て、2013年からは広島市の年末年始診療の内科拠点病院の一つに指定され、現在に至っています。

今後も法人の理念である“望まれる医療の実践”を基本として、五日市記念病院、廿日市記念病院それぞれの基本方針を違えることなく、佐伯区医師会、佐伯地区医師会や周辺の医師会会員の皆様方、介護関連、保健行政の方々と連携を密にし、ご助力をいただきながら地域医療を続けていく所存です。

清風会病院（五日市記念病院＋廿日市記念病院）の 今後の運営について

五日市記念病院においては、2020年4月から医療療養病床40床の内28床を地域包括ケア病床に変更しましたが、コロナ感染症が拡大する中での発熱患者さん対応の内科系個室を確保するため、この度、残る医療療養病床12床を全て一般病床に変更することとしました。その結果、今後は一般病床72床（内、血液内科用の無菌病床19床）、回復期リハビリ病床80床、地域包括ケア病床28床の計180床で運用することとなります。

廿日市記念病院においては、これまでどおり回復期リハビリ病床60床、医療療養病床42床、緩和ケア病床24床の計126床で運用して参ります。通所リハビリ・訪問リハビリもこれまでと同様に継続しますので、維持期のリハビリのために是非ご利用ください。

五日市記念病院、廿日市記念病院は、距離的には車で約15分程度と少々離れてはいますが、両院が緊密に連携して“306床の清風会病院”の概念で運用して参ります。例えば、清風会病院の回復期リハビリ病床は総計140床となりますが、患者さんの居住地を配慮しながら、急性期治療を終えたばかりの、未だ病状不安定期にある患者さんは主として五日市記念病院で、そして、状態が安定し、特に高次脳機能障害などの比較的長期のリハビリを必要とする方には廿日市記念病院でじっくりとリハビリをしていただく、など、患者さんの病状、病態に合わせて入院先を決めたいと考えています。今回の変更により五日市記念病院では医療療養病床が“0”となりますが、廿日市記念病院の医療療養病床を有効に利用しつつ、地域の療養型医療機関や施設などと緊密に連携を取り、ご協力をいただきながら対応していきたいと思います。

図1:(医)清風会の再構成

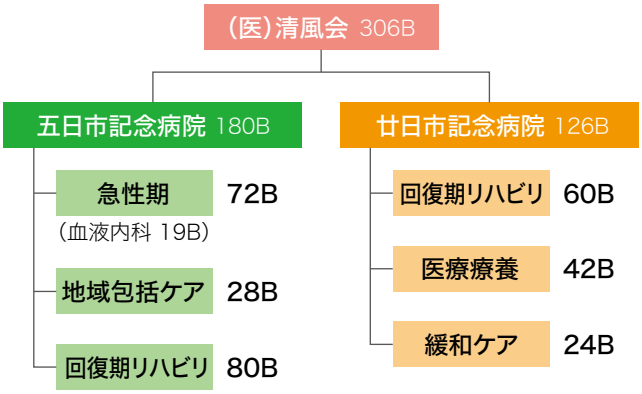
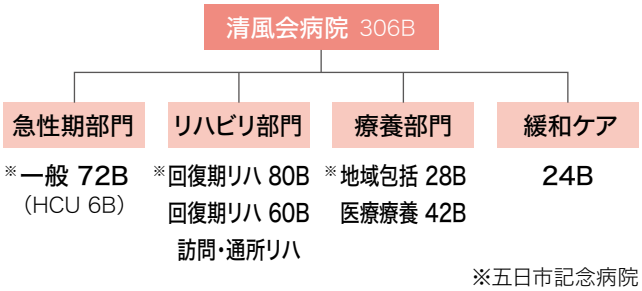


図2:「清風会病院」の概念と役割



※五日市記念病院

清風会病院の医療理念発祥の原点である五日市記念病院脳神経外科においては、24時間、365日脳卒中に対応できる脳卒中センターとして活動できるように更なる充実を図ります。手術治療を必要とする脳卒中に対して、開頭術や血栓内膜摘出術などの直達手術とカテーテルを用いた血管内手術の双方から、患者さんに最適と考える治療法を選択して治療に当たるハイブリッド手術は既に実施しているところです。しかし、最も重要な点は、くも膜下出血や脳梗塞などの脳卒中の発症を予防することであり、発症前の未破裂脳動脈瘤や頚部内頚動脈狭窄症を早期診断し、それらに対する予防的手術を、直達術や脳血管内手術を適切に選択して、今後も積極的に実施していきます。更には脳卒中発症の基盤となる心疾患や生活習慣病を早期発見し、治療、管理していくことも肝要で、循環器内科や内科とも連携して診療に当たりたいと考えています。

終わりに

新型コロナ感染症の流行が拡大の一途を辿る中、医療関係者は勿論のこと、皆様方におかれましても不安で大変な日々を送られていることと思います。

奇しくも、1年前の本誌に私が寄稿したのは“東京オリンピック開催の年、広域感染症の予防について”と題したご挨拶でした。その直後から新型コロナ感染症が世界的に拡大し始め、短期間の内にパンデミックの状態になりました。当時このような事態になることを予想だにせず寄稿しましたが、まさか現実になろうとは・・・。

広島県においても日増しに新型コロナ感染症患者さんが増加しており、直接治療に当たられている医療機関の皆様方のご苦労と努力には頭が下がる思いです。五日市記念病院も二次救急医療機関として、発熱を伴う脳卒中や外傷患者さんを診療しています。無症状の方も増加していると推定されるため、院内感染防止のために外来や救急診療においても相当の注意と緊張感をもって対応せざるを得ない状況にあります。病院の構造や医師、看護師を含む人員的な理由で、新型コロナ感染症と診断された患者さんへの直接的な対応はできませんが、現在の逼迫したコロナ医療を、間接的にでも我々のできる範囲内で可能な限り支援していきたいと考えています。

厳しい医療情勢が続く中でのコロナ禍の到来で、万人万事が未経験で先行きも見通せず、強い不安を抱かざるを得ない状況が当分の間続くことが予想されますが、小事に囚われず、皆が協力し合うことで乗り越えることが出来ると信じ、法人職員一丸となって鋭意努力しますので、ご協力、ご指導賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

〈新春を迎えて〉～我が法人は永遠なり～

理事長職の禅譲

社会医療法人 清風会　顧問　**梶原 四郎**

生い立ち

私の父は、昭和5（1930）年に大阪大学医学部を卒業して大阪で開業している時に戦争にかり出され、計6年間の兵役で身体を壊し、父親（私の祖父）の故郷である瀬戸内の小さな島に帰り、開業医として急患があれば昼も夜も休みなく働き、92才まで医療人として奉仕の心を持ち続けました。しかし、医師個人と家族の生活は軽視され、常に患者に束縛された生活で自由がなく、父と一緒に旅をしたことは殆どありませんでした。

私はそんな島の開業医の4男として昭和22（1947）年11月に生を受け、がんぼ（やんちゃ坊主）、ガキ大将として海あり山ありの自然豊かな中で小学時代を過ごしました。周囲の人達からは、「わしの最後の脈はあんたが取ってくれにゃいけんで」と医師になることが義務であるが如くに扱われ、内心では絶対に医師にはならないと思っていました。

中学生になって勉学のために広島で下宿生活を送るようになると、多感な中で独り考える時間が長くなり、父や母の生き様を考えることが多くなりました。高校生になり、「裁判官になり、正義を貫きたい」気持ちが強くなったものの、田舎に居る両親のことを考えると心が揺らぎ、結局は医師の道を選ぶことになりました。

病院開設

昭和47（1972）年に広島大学医学部を卒業後、外科医を目指して叔父（父の弟）が院長として勤務する呉国立病院（現呉医療センター）へ就職し、昭和51（1976）年に母校の大学病院へ勤務して以後は、脳神経外科を目指すことになりました。当時は当然の如く、医師は「自分の時間が有って無きが如し」で患者中心に時間が費やされ、プライベートの予定を立てることすら難しく、家族旅行もままならず、当然、子供との時間も制限されておりました。

加えて、大規模な病院になる程に意見が通り難くなり、良いと思って立案をしても受け入れられず、ストレスが溜まることが多くなりました。

惑わない筈の40才にして惑うようになり、このままでは自分の人生に満足が出来ないと感じ、「労多くして事ならず」と心配して反対する意見もありましたが、理念である「社会に望まれる医療の実現」を旗印にし、ワークライフバランスを保ちつつ自由闊達な医療が出来、加えて24時間保育などの福利厚生面が整った病院を創ってみたい衝動に駆られました。

何も知らない状態、知らない土地で、しかもいきなり100床規模の病院を創ろうと言うのですから、無鉄砲にも程があります。案の定、苦労の連続でしたが、苦労の甲斐があって平成3（1991）年7月に脳神経外科を中心に救急を担う五日市記念病院（95床の個人病院、現在180床）を開設することが出来ました。

理事長職の禅譲

どうにか病院開設に漕ぎ着けたものの、人材不足の中での寄せ集め軍団に理念を浸透させ、組織として医療に携わることを教えるために筆舌に尽くせない困難さを味わうことになりました。夜遅くまで働き、深夜にやっと寝付いたと思いきや早朝に冷汗と共に覚醒し、眠れなくなることも頻回でした。それでも「夢は生きる原動力」と自らに言い聞かせて必死で乗り切って来ました。

平成10（1998）年に医療法人化を行い、介護保険制度の発足に合わせて、平成12（2000）年6月にはリハビリを中心に緩和ケア病棟を併設する廿日市記念病院（109床、現在126床）を開設し、医療の幅を広げることが出来、更に経営の安定化を図ることが出来るようになりました。

しかし、平成14（2002）年からの診療報酬のマイナス改定はボディブロウのように次第に経営状態を悪化させ、平成18（2006）年4月の新看護体制「7：1」の影響は凄まじく、公的病院への看護師の転出のみならず、公的病院の大量の看護師採用に因って著明な看護師不足となり、五日市記念病院の増床、増築も重なって、所謂「労務倒産」を避けられない事態に落ち込みました。

倒産を覚悟する中で、メインバンクを中心に元金支払いの一時免除などの協力を得ることが出来、平成29（2017）年に社会医療法人化を成し遂げると共に看護師を中心とする不足人材の補充が成され、経営状態は急速に改善されて来ました。

40才にして考えた自分の人生の目的がほぼ実現出来たように思われ、当初70才の年にと思っていた時期が3年遅れることになりましたが、令和2（2020）年10月を以て、開設以来苦楽を共にした五日市記念病院の院長である後輩の向田先生に理事長職を禅譲することにしました。

おわりに

一度しかない人生をどのように生きるかは、人それぞれで異なります。70才を過ぎて自分の人生を振り返って見ると、好きな道を歩む事が幸せであることに違いはありませんが、否応なしに選ばざるを得ない道であっても自分の選んだ道を損得でなく、正論を以て一生懸命に最善を尽くし、後を次の世代に託せることが満足出来る幸せな人生と言えるのではないでしょうか？

理事長職を禅譲した今、精一杯生きた自分の道を自己評価しつつ、次の世代が理念を旗印として更に発展させてくれることを期待して止みません。

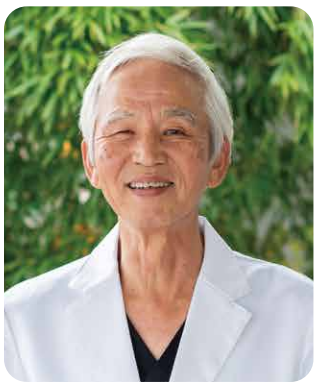
山陰の朝日（撮影：梶原 四郎）

日本海に面して懐かしい海の匂いがする山陰の宿へ泊まりました。早朝に目覚めると素晴らしい朝日が目に留まり、スマートフォンで撮影をしました。写真の中に新理事長を中心とする清風会の今後を見る思いがしています。

廿日市記念病院

コロナ禍からの早期復帰を願う

廿日市記念病院　院長　**浅野　拓**



新型コロナのパンデミックで、今年10月までに感染者数は全世界で3,800万人、死者は100万人を超え、第2波、3波の発生も消退なく不安は持続しており、アメリカの大統領選挙では対策についての中傷合戦が続いている現況です。

日本の感染者数は延べ9万人、死者1,600人、また署名人の死亡報道により益々恐怖心を高めたこともありますが、広島県は幸いにも大都市に比べて発生数は少なく、医療崩壊には至らずに経過して来ました。

経済的な困窮に対しての給付金支給などの手続きの遅れは、IT先進国に比べ日本の制度の不備が指摘され、安倍政権を受け継いだ菅内閣は、早急にマイナンバー制度の整備、デジタル庁の設立を進めています。

夏からの緩和対策では、Go To travelから始まったGo To ～で、飲食・観光業界も少しずつ立ち直りの傾向が見られるのが明るい材料でしょうか。

当院は4月の政府による緊急事態宣言の発令に先立ち、コロナ対策はシビアーに取り組みました。3密を避けるために、朝礼、職員同士の会食、新入職員のオリエンテーション、院内学会、忘年会などのイベントを中止。また合同会議はリモートで行ってきました。

仕事面では外来リハビリの中止、入院患者への面会禁止、発熱患者の別室での診察、etc.で院内発症やクラスターもなく対策効果があったと考えています。

他国に比べ、人の迷惑を考え、規則をよく守る国民性も評価していいのではないでしょうか。引き続きインフルエンザの同時期発症に鑑み、予断は許さない対処が肝要と考えます。

最後になりますが、清風会は社会医療法人になって3年が経ちました。梶原理事長の退任で向田先生が後任に決まり、五日市記念病院の増築工事の遅れも可及的速やかに取戻し、長年の構想である西部医療圏の設立、地域医療連携推進法人の計画、連携による基幹病院作りに向かって、これからも職員の協力をよろしくお願いします。

カルテ記入、略語を少なくしたい

廿日市記念病院　副院長　**番匠谷（ばんしょうだに） 孝廣**

最近、世の中に略語が多く氾濫し、医療の記録のカルテにも、その波がきています。

例えば、「FM」という記載があり、なんだろうと考えていたところ、事務職員のお一人が「File Makerのことでは」と教えてくれました。ほかの機会に「VS」という記載を目にしましたが、これは「Vital signs」の略だと文章の前後から分かりました。時に「KP」という略語もありました。「Key person」と思われます。（さすがにこれはすぐに分かりました。）

医学論文では、読まれる側に充分に理解してもらうために最初に略語の説明がありますが、カルテ記入は自由記入のため略語の説明はないのが普通です。もちろん親切な方、どうしても理解してほしい時は、略語の説明があります。

ところで、「HR」とは何でしょうか。野球用語ではホームランですが、医療上では「Heart　rate」です。忙しい時代、略語をどんどん使いたいところですが、略語の解釈に時間を要するようでは、何のための略語か分かりません。せめてカルテ記入は、可能な限り略語を使わないようにしてもらいたいし、したいと思います。

明けまして おめでとうございます

五日市記念病院　副院長　茶木（ちゃき） 隆寛

皆様、明けましておめでとうございます。今年も何とか新しい年を迎えることが出来ました。昨年はコロナ・コロナで１年が過ぎてしまいました。今年も先行きの見えない年の始まりですが、何とかコロナと付き合いながら過ごしてゆくしかないのでしょう。コロナへの用心のため、数少ない楽しみである外食や旅行の機会が減りました。昨年は旅行の費用を新しいテレビの購入費に回しました。この原稿が掲載される頃にはワクチンや治療薬が出てきていることを願っています。何も気にせずに外食や旅行が出来る世の中に戻って欲しいところです。

私事ですが今年は65才となります。定年が延びてきているとは言え、一応定年の年齢です。過ぎてきた年月を考えると怖くなりますが、あっという間の気もします。若い方達は1日1日を大切に頑張ってもらいたいと思います。定年の年になったと言っても、当分は働かせてもらえそうです。色々な部分の痛みを我慢しつつ、もう暫くは頑張ろうと思っています。さすがに当直は堪えるようになりましたが。

色々と取り留めのない内容となりましたが、コロナに注意しながら頑張ってゆきましょう。

今年も宜しくお願いします。

たかがコロナ、されどコロナ

五日市記念病院　副院長　土井 謙司

新年明けましておめでとうございます。

本来なら、昨年下位に沈んだカープのキャンプ便りを心待ちにしている時期ですが、新型コロナのために「三密」を避けながらの自粛生活が続いています。

2019年末に中国の武漢で流行が始まった新型コロナCOVID-19は、瞬く間に世界中に広がり、感染者6,000万人以上、死者150万人以上と猛威を振るっています。

そもそもコロナウイルスは、我々にとっては感冒を引き起こすありふれたウイルスです。毎年冬になると、高熱、咳、倦怠感などを訴える患者さんがたくさん来られます。今までは、鼻の穴に綿棒を突っ込んで、「インフルエンザAですね。」とか「風邪でしょう」とか言ってましたが、最早、怖くてそんなことは出来なくなりました。「どうすれば感染せずに、診断して、治すことができるんだろう？」と悩んではいますが、多分それは無理です。今までは「万一、罹っても治る」と、高をくくっていました。でも、コロナはまだ「未知」であるために怖い。時にはSARS、MERSという致死的呼吸器感染症のアウトブレイクを引き起こし、決して侮ることのできない厄介なウイルスであることは、ご存じのとおりです。

ダイヤモンド・プリンセス号の沖合停泊指示以外は失政続きのお上の下、発熱外来、ワクチン、特効薬も手軽な検査法も持たない今は、せめて頻発しているクラスター病院のひとつに当院がならないことを願うばかりです。

ともかくも、ジョンソンが去った今は、河田コーチの復帰をてこに、誠也、大瀬良、野村くんの復活、森下はじめ若鯉の活躍を願いながら、球春を待っています。

新年のご挨拶

看護部　部長　安達 貴枝

明けましておめでとうございます。

昨年度は、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大にともない、広島でも感染者が発生し、全国的に緊急事態宣言が発令され、不要不急の外出の自粛など日常生活においては大きな制約や不便が生じたと思います。年末には第3波の到来で油断は出来ない状況下の中、こんな制約や不便を感じながらでも、引き続き、清風会で働く一人ひとりが、感染防止対策を徹底しつつ、元気に、明るく業務に従事してほしいと思います。

看護部には昨年4月より、副看護部長を配置。7月からは看護企画室を立ち上げ、主に教育支援、採用支援、医療安全に力を入れています。

また、今年1月より廿日市記念病院にも副看護部長を配置できました。清風会病院として、今まで以上に二つの病院が連携を強化し、一緒に病院作りをしていきたいと思います。

患者さん、ご家族に喜んで頂くためにも、働きやすい環境を整え、楽しく仕事が続けられるということは、ひいては患者さん、ご家族のためでもあり、更には清風会病院の発展にも貢献出来ると思います。

「清風会に受診して良かったと選ばれる病院、地域のニーズに応えられる病院」をみんなで一緒に作っていきたいと思います。

今年もよろしくお願いいたします。

五日市記念病院　看護部　副部長　高橋 直美

明けましておめでとうございます。

昨年は、五日市記念病院 看護部責任者を拝命し、清風会看護部としての組織体制の見直し、連携強化に努めて参りました。コロナウイルス感染の拡大に翻弄されながらも、両病院の看護部責任者で連携を取り協働し、看護企画室の立ち上げも含め、看護部長を中心に組織体制を強化し、確立することが出来たと感じています。昨年は、私にとって看護管理者として本当に多くの学びを頂いた1年でした。また、その過程で多くの方のご支援とご指導を賜り、法人の心強い仲間に恵まれていることを実感しました。未熟者ではありますが、しっかりと地に足をつけ、昨年の学びを活かし頑張っていきたいと思います。

看護部の理念

信頼される看護を行い
地域の人々に貢献する

【看護部　基本方針】

- **患者さんの人格を尊重し、安全な看護を提供する**
- **人間性豊かな看護師を目指し、自己研鑽に励み、専門知識・技術の向上のため継続的な学習に努める**
- **看護業務を確立し、他部門との協働により、質の高い看護を目指す**
- **思いやりを大切にして、温かく心のこもった看護を実践する**

廿日市記念病院　看護部　副部長　松永 清志

令和2年7月1日より、廿日市記念病院看護部長代行として、看護部責任者の任を拝命致しました。

前任者からの引継ぎ後、適切な労務管理及び教育支援など努めて参りました。最も大きな課題である経営への参画については、外来及び病棟スタッフの不断の努力で、病床利用率は緩和ケア病棟及び療養病棟とも82%で目標を維持しています。回復期リハビリ病棟においても80%弱と目標に至ってはいませんが、昨年度に比べポイントは高くなっています。稼働率に至っては緩和ケア病棟が88%と入退院が多く、対象患者様のニーズにできるだけ応えるよう努力しています。引続き他部門との連携を取りながら、地域社会に望まれる病院を目指し、健全な経営に看護部として参画していきたいと思います。

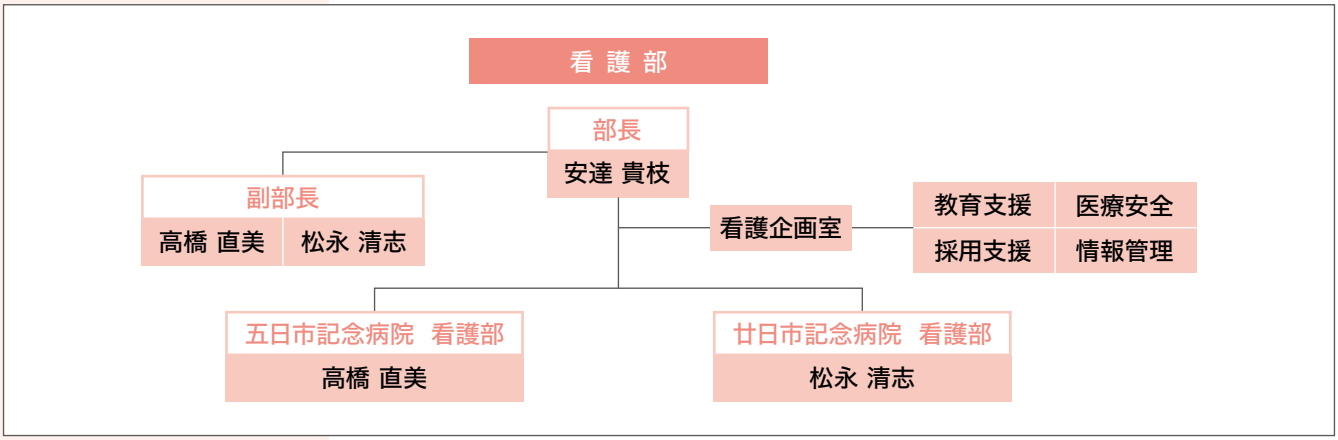
今後の課題としては、コロナ禍を始め、われわれを取り巻くさまざまな状況に対応出来るよう、看護の質向上を進めていくことです。看護部門職員の管理的能力及び実践能力を高めていくよう、共に学び共に成長出来るような研鑽を積み重ねていくことが大切だと思っています。

看護部　看護科長　川眞田 民江

令和2年7月から看護企画室が立ち上がり、7月1日から配属になりました。看護企画室の主な役割は、①教育支援②採用支援③医療安全④情報管理です。

配属より、教育支援ではラダー制度構築に向けての準備を教育委員会メンバーと一緒に進めています。看護部職員が、各々の目標を持ちキャリアアップしていけるようなシステムを目指しています。皆さんがやり甲斐を感じ、これからも働き続けることが出来るような環境作りを支援していきたいと思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。



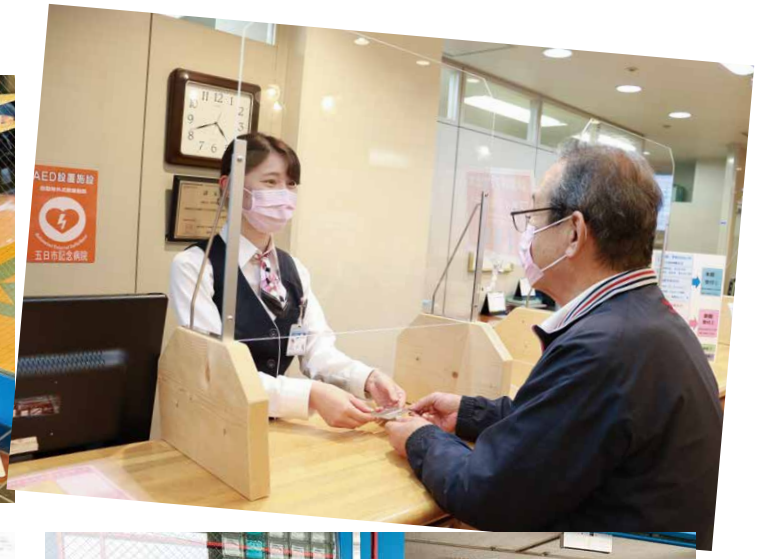
【看護企画室の主な役割】

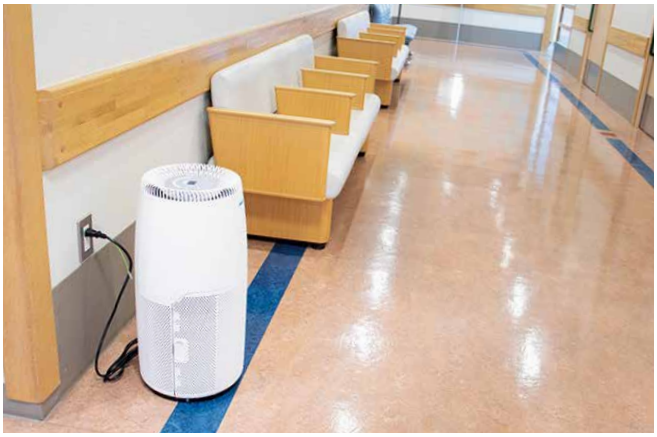
教育支援	ラダー制度構築・再編、認定Ns養成、看護管理者養成、PNSの確立
採用支援	インターンシップ体制構築、卒後ローテーション研修管理
医療安全	安全管理体制構築、安全管理者養成
情報管理	部内情報発信、入院案内編集、記録監査

01 | 新型コロナウイルス感染防止対策

清風TOPICS

新しいシステムを導入することにより、患者さんの移動や待ち時間にかかる負担を減らし、安心して受診いただけるよう感染防止対策に注力しました。
新型コロナウイルス感染防止対策として、五日市記念病院では次の取り組みを行っております。





新型コロナウイルス
感染拡大防止の取り組み

❶ 全病棟面会禁止

入院患者さんへの感染防止のため、原則、面会禁止とさせていただいています。
引き続き感染拡大状況により、面会制限の強化や緩和について随時検討してまいります。

❷ 正面玄関での検温・問診票記入

外来患者さんを含め病院へ入られる全ての方に、正面玄関での検温と新型コロナウイルス感染症に関する問診票のご記入をお願いしています。
対応する職員は、ゴーグルや手袋の着用など、感染防止対策をとっています。

❸ 受付場所の変更

待合室の密集を避けるため、予約患者さんの受付場所を本館から新館へ変更しました。

❹ 受付窓口等の飛沫防止パネル設置

患者さんや職員への飛沫感染を防止するため、受付窓口や処置台等に飛沫防止パネルを設置しました。
また、職員同士の感染を防止するため、職員食堂にパーティションを設置し、各テーブル最大2名、対角線に座る等、使用の制限措置をとっています。

❺ 電話での外来診察

状態が安定している通院中の患者さんには、電話での診療を積極的に行っています。
自宅にいながら診療を受けることが出来ますので、公共交通機関を利用して来院する不安や受付・会計の長い待ち時間での感染リスクを下げます。

❻ オンライン診療

予約・順番受付サイトのオンライン診療を導入しました。
状態が安定している通院中の患者さんにオンライン診療を行っています。電話診療では出来なかった「患者さんの表情を見ながら診療を行う」ことが出来るようになりました。電話診療と同様に、安心して診療が受けられます。

❼ AI問診

AI問診を導入しました。
診療までの待ち時間を利用して、患者さんご自身で専用のタブレットからAIの質問に答えていただくことで、問診内容を自動でまとめることが出来ます。その内容を元に診察を行いますので、問診漏れやカルテ入力の作業時間を減らし、患者さんの待ち時間を少なくし待合室の混雑を減らします。

❽ クレジット決済サービス

クレジットカード情報を登録していただくことで、当日の診療よりお会計にお待ちいただく必要がなくなります。診察後は、処方箋を受け取りそのままお帰りいただけます。会計待ちの混雑解消になり、待合室の密をなくします。

❾ 空気清浄機設置

患者さんに安心していただくために、ウイルス除去にも効果的な空気清浄機を外来の診察室・待合室や病棟に設置しました。

02 | 清風会芸術奨励作品展

清風TOPICS

清風会では、2013（平成25）年より、芸術文化教育の振興と芸術作品の展示を通じた療養環境の向上を目的に、広島市立大学芸術学部の学生・卒業生の優秀作品を院内展示する『清風会芸術奨励作品展』を開催しております。広島で学び、意欲的に制作活動に励む若い作家の作品を、患者さんやご家族、多くの方々にご鑑賞いただきたいと考えて企画・運営しております。

例年は外来・入院患者さん以外にも多くの皆様にご来場いただいておりましたが、本年は新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、外来・入院患者さんに限定させていただいての開催としました。

出展作品の中から優秀作品を選出して購入し、現在は院内（五日市記念病院、廿日市記念病院）で合計34の作品を展示しております。ご来院の際にご鑑賞いただけましたら幸いです。

今後も作品展の開催を継続して、芸術文化教育の振興と療養環境の向上に努めて参りたいと考えております。

展示作品（芸術奨励賞）全13点

金賞　「青色と入道雲」　大石 瑞

この度は、昨今の厳しい状況の中で展示の機会を頂けたこと、またこのような賞を頂けたこと、本当に感謝いたします。入院しておられる患者さんや来場いただいた方々に作品を見て頂けたことを大変光栄に思っております。この作品は、青空に入道雲が沸き立つ季節に空を見上げた時の、胸の奥が熱くなる瞬間を思い起こして欲しい、という思いで製作した作品です。少しでも見ていただけた方の心の支えになることが出来ましたら幸いです。

銀賞　「向島より」　田原 千帆

この度は、第8回社会医療法人清風会芸術奨励作品展におきまして、銀賞を頂き、誠にありがとうございます。まさか受賞するとは思いもしなかったので、喜びと同時に恐縮しております。この賞を頂けたのは、これまで御指導くださいました先生方や周りの皆さんのおかげです。心から感謝申し上げます。この受賞を励みとし、新しい世界や表現をみつけられるように一層気を引きしめて製作に取り組んでいく所存です。

銅賞　「覇王樹」　吉村 織那

私とサボテンとの出会いは、大学2年の秋ごろに訪れた植物公園でした。堂々と佇む大きなサボテンを目の当たりにした瞬間、彼らが放つ生命の輝きに魅了され、時間を忘れてひたすらにスケッチしていました。

今回受賞を頂いた作品は、植物の王としての威厳や、生命の強さを表現しています。挫けそうな時や不安に駆られる事も沢山ある世の中だからこそ、サボテンの様に逞しく生きたいと願い描きあげました。

理事長特別賞　「Kawaii国」　田中 優菜

この度は、栄えある理事長特別賞にお選びいただき、心よりお礼申し上げます。この度賞を賜りました「Kawaii国」は、私が初めて制作した綴織の作品です。毛糸や羊毛フェルトなど多様な糸を織りながら、この作品を見た人を笑顔にすることを目指しました。この作品が病院の職員の皆様や患者様の心を少しでも明るくしてくれることを願っています。私も今回の受賞を励みに、作品制作に邁進いたします。この度は誠にありがとうございました。

出展：広島市立大学　芸術学部
会期：令和2年10月26日(月)～30日(金)
会場：五日市記念病院　新館1階　第3待合室
主催：社会医療法人　清風会

社会医療法人　清風会

「ホソニシ」
藤田 木理

「あそぼう(制作途中)」
井上 直哉

「きらきら」
乳井 奎大

「とんぼがとまった」
番原 耕一郎

「Baby」
三松 拓真

「Face」
谷 綾乃

「KAGUYA」
富田 菜月

「百合」
宮村 歩海

「室内風景」
安川 花苗

03 | 「QRコードを活用した非接触受付システム」と今後について

清風TOPICS

五日市記念病院　庶務課　鋳物 俊徳

例年の忘年会開催時には、バス乗車希望者160名のリストを5名の担当が手分けをし、病院に隣接する駐車場で乗車受付処理をしていました。この方法ではリストからの検索・未乗車チェック・突き合せ処理に多くの時間を費やすという問題があったため、2019年は「QRコードを活用した非接触受付システム」を開発し、受付処理の簡略化・混雑状況改善の取り組みを行いました。

課題

●電源がなく院内ネットワークが届かない屋外でどのようなシステムを構築するか。
●暗く、寒く、荷物が増やせない状況で何ができるか。

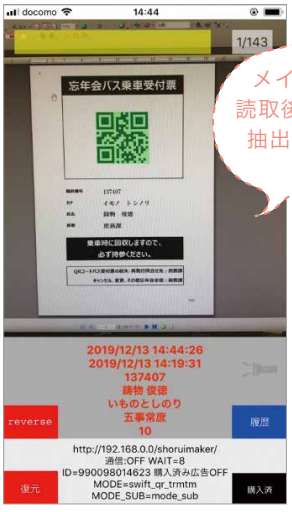
方法

以前開発していたQR情報即サーバー送信アプリを改修し、オフラインでも使用できるよう本体のCSVデータで処理させる。

差込印刷（WEB：PHP）職員番号の情報をQRコード化し差込印刷させ乗車予定者に配布する。

アプリの改修（iOS：X-Code：SWIFT）

●データのCSV化・・・・・・・・・・・QRの情報をサーバー処理から、携帯本体処理に変更させる。
●リバースモードの機能追加・・・本体に取り込んだCSVデータから職員番号を突き合せ、スキャン時にフラグを立てていく。（通常モードはデータの蓄積。）
●CSVデータの抽出・検索・・・・・CSVデータの抽出・検索機能を追加し未乗車や状況を瞬時に行えるようにする。
●サーチライト機能・・・・・・・・・・懐中電灯では読み取りエラーが多く、携帯のフラッシュを常時発光させる。（バッテリーの消耗はモバイルバッテリーを活用）
●読み取り範囲抽出・・・・・・・・・・QR読み取り時、QRコードの輪郭に合わせ、半透明で着色させる。（本件とは無関係）



メイン画面：読取後データを抽出し結果を表示

データ画面：状況に応じた抽出や検索が可能

設定画面：モードに合わせシステム側で挙動の変更が可能

結果

導入により改善された点　特に問題もなくスムーズに適確に処理出来た。受付窓口も1箇所ですみ、5名から3名の配置で可能となった。

さらなる改善が必要な点　交通手段や出欠席の変更でデータが変わり、メンテナンスが必要となる。QRコードの配布や、データの作成で事前準備に時間がかかる。

QRコードの印刷は比較的導入しやすいのですが、活用するためにはシステムが必要となります。この度は独自のアプリを開発することで費用を抑え、応用力が備わったシステムを構築することが出来ました。現在はコロナ禍で忘年会は中止となりましたが、非接触で処理が可能となるため、感染対策の一環としてさらなる活用を考えています。

社会医療法人清風会 第3期の
決算状況について

はじめに

当法人の第3期は、期初となる7月から8月にかけて季節的要因からか入院患者数が少なく、業績は低調なスタートとなりました。病院の繁忙期となる冬場に入ると入院患者数が徐々に増えて、春先まで好調に推移しました。3月に入ると広島市においても新型コロナウイルス感染症が徐々に広がりを見せ、4月には緊急事態宣言が発令されると、医療機関への「受診控え」の影響から外来患者数が2～3割程度減少するとともに、入院患者数も減少に転じました。4月から期末となる6月までの業績は厳しい状況でしたが、終わってみますと期中の好調な業績により、前期（第2期）を上回る決算となりました。

第3期（令和元年7月～令和2年6月）の決算状況について

【この表は、医業収益を100とした構成比を表示しています】

（単位：%）

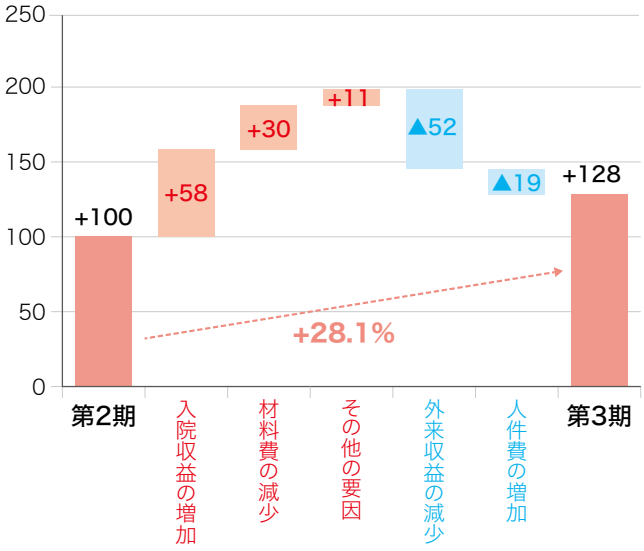
項　目	第2期 実績	第3期 予想	第3期 実績			第4期 予想
	清風会	清風会	五日市記念病院（一般病院）	廿日市記念病院（療養型病院）	清風会	清風会
医業収益	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
医業費用	93.6	97.1	94.1	91.4	93.3	94.8
材料費	23.3	21.1	27.8	6.8	21.7	22.1
人件費	49.7	54.1	47.0	59.8	50.7	52.7
経費	8.6	9.7	7.8	11.6	8.9	8.8
委託費	4.1	4.2	3.7	4.8	4.0	4.0
減価償却費①	5.6	5.7	6.1	4.4	5.6	4.9
本部費	2.3	2.3	1.6	4.0	2.3	2.3
医業利益	6.4	2.9	5.9	8.6	6.7	5.2
医業外収益	1.3	1.9	0.8	0.8	0.8	0.2
医業外費用	2.1	2.3	1.6	1.9	1.7	1.4
経常利益②	5.5	2.5	5.1	7.5	5.8	4.0
可処分所得（③≒①+②−法人税等）	11.1	8.2	11.3	12.0	11.5	8.9
借入金及び割賦返済④	5.8	4.7	4.6	4.9	4.7	4.6
支払後可処分所得（③−④）	5.3	3.5	6.6	7.1	6.8	4.3
外来患者数（人/日）	164.5	175.0	126.1	27.4	153.5	164.0
入院患者数（人/日）	258.8	266.0	152.7	103.0	255.7	250.0

※1 会計処理は病院会計準則に準じています。
※2 五日市記念病院及び廿日市記念病院は、医薬分業を実施しています。
※3 本来人件費である清掃委託費（1.2%）は、委託費に含めています。
※4 第4期の人件費予想は第3期の実績に比べ2.9%多く見積っています。

(1)清風会全体の支払後可処分所得(収支)

清風会全体の収支は、前期に比べて医業収益が増加したことに伴って、医業収益に対する支払後可処分所得の比率も6.8%に増加し、前期の5.3%に比べて**収益性が向上して増収増益**となりました。これをウォーターフォール図に表してみますと、次のようになります。

【支払後可処分所得の増加】



第2期の支払後可処分所得を基準に、それぞれの要因について金額の大きさとその増減を表示しました。支払後可処分所得におけるプラスの主な要因について見てみると、「入院収益の増加」や「材料費の減少に伴う利益の増加」が大きく影響しました。一方で、マイナスの主な要因について見ると、「外来収益の減少」や「人件費の増加に伴う利益の減少」が影響しました。

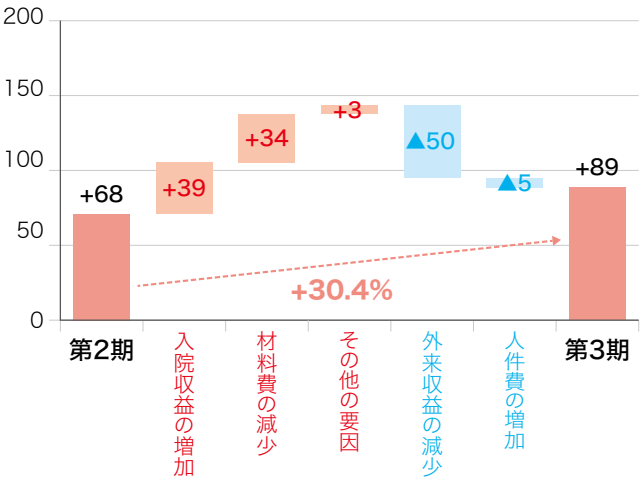
その結果、**最終的な支払後可処分所得は前期に比べ28.1%の増加**となりました。

五日市記念病院　脳神経外科／手術

(2)五日市記念病院の支払後可処分所得(収支)

(五日市記念病院180床)

【支払後可処分所得の変化】



五日市記念病院の支払後可処分所得の増加について見てみると、脳神経外科の手術の収入が増加したことや、一般病棟での血液内科の入院患者数が増加したことが、プラスの要因となりました。更に、療養病棟の一部を地域包括ケア病床へ転換したことによる入院単価のアップや、回復期リハビリテーション病棟でのリハビリ提供単位数の増加に伴って入院単価がアップし、入院収益の増加につながりました。また、血液内科での医薬品の使用量の減少に伴う材料費の減少もプラスの要因となりました。一方で、マイナスの要因について見てみると、4月から5月にかけて新型コロナウイルス感染症の影響に因る「受診控え」により外来患者数が減少したことや、職員数の増加によって人件費が増加したことなどがあげられます。

その結果、**マイナス要因よりもプラス要因の影響が大きく上回り、支払後可処分所得は前期に比べ30.4%増加**しました。

五日市記念病院の支払後可処分所得の増減要因について

■プラス要因

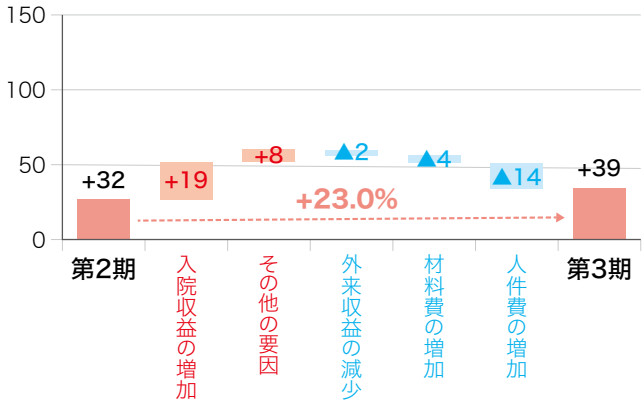
①脳神経外科の手術収入の増加
②血液内科(一般病棟)の入院患者数の増加
③療養病棟の一部を地域包括ケア病床へ転換
④回復期リハビリテーション病棟の入院単価のアップ
⑤材料費の減少

■マイナス要因

①外来患者数の減少
②人件費の増加

(3)廿日市記念病院の支払後可処分所得(収支)
(廿日市記念病院126床)

【支払後可処分所得の増加】



廿日市記念病院の支払後可処分所得の増加について見てみると、回復期リハビリテーション病棟の入院患者数は若干減少したものの、入院基本料1への類上げや、リハビリ提供単位数の増加に伴って入院単価がアップしたことが、プラスの要因となりました。更に、療養病棟では入院患者数の増加や、一年を通して入院基本料1を維持できたことが入院単価のアップとなり、入院収益の増加につながりました。一方で、マイナスの要因について見てみると、職員数の増加に伴って人件費が増加したことなどがあげられます。

その結果、最終的には**支払後可処分所得は前期に比べ23.0%増加**しました。

廿日市記念病院の支払後可処分所得の増減要因について

■プラス要因

①回復期リハビリテーション病棟の入院単価のアップ
②療養病棟の入院患者数の増加
③療養病棟の入院単価のアップ

■マイナス要因

①人件費の増加
②材料費の増加
③外来患者数の減少

社会医療法人第4期(令和2年7月～令和3年6月)の収支予想について

病院開設29周年を迎えた昨年10月に理事長が交代となりましたが、法人の方針・方向性は変わることはなく、前期に引き続き第4期も良質な医療を継続するため、健全経営化に力を入れていきます。

五日市記念病院では、新型コロナウイルス感染症への対応や救急医療に力を入れ、急性期を中心に回復期並びに地域包括ケアまでの入院機能を充実させていきます。また、本館南側に接続するかたちで、3T-MRIを設置するための増築棟(地上4階、地下1階)の建設計画を進めており、当期に着工する計画となっていますが、時期については新型コロナウイルス感染症の状況を見極めながらの判断となりそうです。

一方の廿日市記念病院では、従来通り緩和ケアを併設した総合リハビリテーション病院として、地域の医療機関との連携強化を推進し、介護分野では医療のアフターケアとしてのデイケア及び訪問リハビリテーションに力を入れていきます。

法人経営においても新型コロナウイルス感染症による影響は未知数で不確定要素が多い状況ですが、**法人全体の連結収支予想は、医業収益に対する支払後可処分所得の比率が+4.3%前後になると見込んでいます。**

廿日市記念病院　個室

おわりに

昨年の決算報告からグラフを用いた内容に変更しました。出来るだけシンプルで分かり易い報告にしたいと考えていますので、今後の改良のためにもご意見をいただきたいと思います。

中小の民間病院を取り巻く経営環境は厳しい状況ですが、良質な医療は健全な経営から生まれるとの基本的な考えの下、将来を見据えた法人運営を企画していきます。

社会医療法人清風会は、五日市記念病院と廿日市記念病院を一体と考えた"清風会病院の概念"の下、地域に望まれる病院づくりを続けていきます。職員の皆さんの理解と協力をお願いします。

五日市TOPICS

見て・触れて・癒やされて アニマルセラピー

五日市記念病院では、2020年9月よりアニマルセラピーを開始しました。

廿日市記念病院では2017年より同セラピーを行っており、2020年以降アニマルセラピスト（2名）、セラピードッグ（ふたばちゃん）が在籍しています。

五日市記念病院でも開催のご要望を受け、NPO法人アニマルセラピー協会の方にご協力いただき、月に1度、実施しております。

血液内科疾患等、免疫低下を伴う患者さんや動物アレルギーの方に配慮し、会場やエレベータ内の清掃や、参加された患者さんや職員に付着した動物の毛の除去などを徹底して行うとともに、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から参加人数の上限を決め、参加者同士の間隔を空けて座っていただくようにしました。

当アニマルセラピーは、セラピードッグたちとのふれあいを中心に、その他ミニゲームや記念撮影などを行っております。

大型犬は患者さんの膝にあごを乗せて撫でてもらっていたり、小型犬は膝に乗って抱っこしてもらったり、その犬種ならではの方法で癒やしてくれます。

動物に触れるのが得意ではない患者さんも、他の参加者の方のふれあう様子を見て気持ちがほぐされ、やがて積極的にセラピードッグたちの温かさや毛の柔らかさを体感されていました。

担当職員に、アニマルセラピーを開催した感想を聞いてみました。

理学療法士 宍戸 健一郎

入院生活では少なくなりがちな「癒やし活動」を通じて患者さんが笑顔になっていることが印象的でした。セラピードッグが患者さんの精神健康を向上させる一役を担えているのではないかと思いました。

作業療法士 佐々田 由喜

私自身、動物を介して患者さんと関わることが初めてでした。殆どの患者さんが病棟スタッフや患者さん同士の交流ではみられない柔らかな表情をされていました。OTとして、「環境」を作ることの大切さを感じました。

看護師 秋田 香織

犬が苦手と言っていた患者さんもセラピードッグを見て嬉しそうにしていました。家族と面会も制限されている中で治療やリハビリを頑張っている患者さんにとって、気分転換になったと思います。

介護福祉士 谷口 純一郎

みなさん今まで見たことがないくらいの笑顔でとても楽しそうにセラピードッグと触れ合っていました。犬を飼っていたという患者さんもおられ、嬉しかったと話されていました。

参加された患者さんに喜んでいただいています。たくさんの方に参加していただきたいと思っていますが、感染症拡大防止の為、しばらくは参加人数を限定して行っていきます。

その月にちなんだ衣装を身に着けて記念撮影！
ポラロイドカメラで撮影してその場でプレゼントしています。

五日市TOPICS

広島ホームテレビ「医療の現場最前線」が放送されました

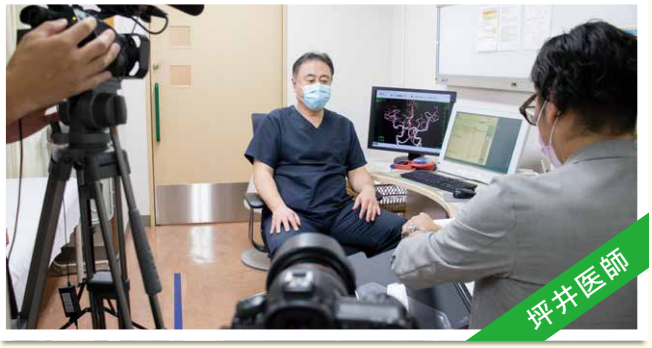
昨年12月に広島ホームテレビ「医療の現場最前線」で五日市記念病院を取り上げていただきました。

新型コロナウイルス感染拡大により取材の受入が難しく予定より大幅に遅れてしまいましたが、たくさんの方々にご協力いただきトラブルもなく無事に終えることが出来ました。

今回のテーマは「脳卒中治療」で、脳神経外科の坪井俊之医師・梶原洋介医師を中心に「クモ膜下出血」「脳梗塞」「脳血栓症」の手術や治療についてご紹介し、その中でも、「クモ膜下出血発症後に起こる脳血管攣縮」という合併症について取り上げられ、坪井医師より、「充満した血液を洗浄することが脳血管攣縮を防ぐために必要な処置である」と説明してもらいました。

当院では発症後の治療を行うことはもちろんですが、「脳卒中そのものの予防」を考え、脳ドックや血管ドックなどで検査を行い、早期発見し適切な治療を行っています。発症後では後遺障害が出る危険性があるので、出来るだけ発症を防ぐことが大事であると向田理事長は語りました。

「脳卒中治療」や「予防の大切さ」について、視聴者のみなさんにお伝え出来たのではないかと思います。


坪井医師

梶原医師

理学療法士 宍戸

茶木副院長

向田理事長

テレビ局：広島ホームテレビ
番組名：医療の現場最前線～サインを見逃すな！脳卒中治療の今～
放送日：2020年12月19日（土）
当院ホームページにて動画を公開していますので、ご視聴できなかった方はぜひご覧ください。

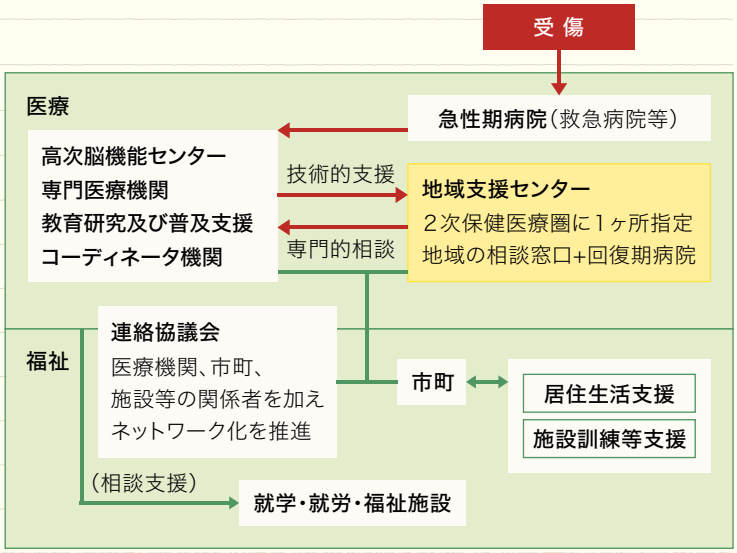
廿日市記念病院 地域医療連携室からのご紹介

廿日市記念病院は
広島県の高次脳地域支援センターに指定されています

①広島県高次脳地域支援センター

脳卒中や交通事故などで脳障害を負った人を支え、県内で均一なサービス提供、相談が出来るように7つの2次保険医療圏で1箇所ずつ支援センターが配置されています。

廿日市記念病院は広島西医療圏で「高次脳地域支援センター」に指定されています。



②高次脳機能障害とは

- 交通事故等による脳外傷や脳卒中等による脳血管障害等により、脳に損傷を受けた後遺症等として起こる、記憶障害、注意障害、社会的行動障害などの認知障害等を指します。
- 日常生活に重大な支障をもたらすが、一見して症状を認識することは困難であり、医療・福祉を統合した総合的な施策が必要です。

③高次脳機能障害の原因（代表例）

高次脳機能障害は様々な原因により生じます。

- 脳外傷（交通事故、転落、転倒）
- 低酸素脳症（一時的に脳へ酸素がいかなくなることで生じる症状）
- 脳血管障害（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血など）
- 脳腫瘍

④廿日市記念病院の対応内容（一部）

- 窓口での相談
- 広島県高次脳機能センター（東広島市）への紹介や連携。関係機関との連携。
- 高次脳機能障害（上記原因疾患）患者への入院リハビリ（回復期リハビリテーション病棟）、外来リハビリ実施。
- 身体障害者手帳、精神障害者手帳（高次脳機能障害）など各種制度の診断書作成、申請手続きの説明

高次脳機能障害の主な症状

五日市記念病院　連絡先（代表）TEL：082-924-2211　FAX：082-924-8111　e-mail：msw@seifu.net
（直通）TEL：082-924-2343　FAX：082-924-2215

廿日市記念病院　連絡先（代表）TEL：0829-20-2300　FAX：0829-20-2301　e-mail：msw@seifu.or.jp
（直通）FAX：0829-20-2777

診療担当医師のご紹介

五日市記念病院

脳神経外科
理事長・院長　向田一敏（昭和54年広島大学卒）
副　院　長　茶木隆寛（昭和58年愛媛大学卒）
診療部長　坪井俊之（平成9年宮崎大学卒）
技術部長　梶原洋介（平成13年広島大学卒）
顧　　問　梶原四郎（昭和47年広島大学卒）
　　光原崇文（平成13年広島大学卒）※
　　片桐匡弥（平成16年広島大学卒）※

内　科
副院長・科長　土井謙司（昭和53年岡山大学卒）
ドック科長　印具　誠（昭和57年自治医科大学卒）
　　藤田順子（昭和63年藤田医科大学卒）
　　黒木ゆり（昭和56年広島大学卒）
　　菊地由花（平成22年久留米大学卒）※
　　瀬山敏雄（昭和50年広島大学卒）※

循環器内科
科　　長　湯谷　剛（平成2年愛媛大学卒）
総合診療科長　免出　朗（平成11年山梨大学卒）
　　林　康彦（昭和47年広島大学卒）※

血液内科
副院長・科長　許　泰一（昭和52年広島大学卒）
　　名越久朗（平成15年広島大学卒）※
　　吉田徹巳（平成19年島根大学卒）※
　　樗木　錬（平成29年広島大学卒）※

外　科
科　　長　亀田　彰（昭和55年広島大学卒）

整形外科
　　平松廣夫（昭和47年広島大学卒）※

廿日市記念病院

脳神経外科
院　　長　浅野　拓（昭和48年岡山大学卒）
　　髙柿尚始（平成14年広島大学卒）
顧　　問　梶原四郎（昭和47年広島大学卒）

外　科
副院長（緩和ケア施設長）　番匠谷孝廣（昭和51年広島大学卒）
　　髙橋　元（平成20年広島大学卒）
　　吉屋智晴（平成14年広島大学卒）※

内　科
　　小原弘之（平成3年山口大学卒）
　　益田智子（平成16年広島大学卒）※

循環器内科
　　免出　朗（平成11年山梨医科大学卒）

呼吸器内科
　　中川三沙（平成15年広島大学卒）※
　　三浦慎一朗（平成23年広島大学卒）※

※印：非常勤医師
（令和3年1月1日現在）

五日市記念病院
脳・血管ドックのご案内

ドックコース

Ⓐ脳ドック……40,000円
Ⓑ簡易脳ドック……25,000円
Ⓒ血管ドック……65,000円
Ⓓ簡易血管ドック…55,000円
Ⓔ脳＋血管ドック…80,000円

オプション

肺癌検診（肺CT検査）…… 8,000円
内臓脂肪測定（CTによる）…… 2,000円

●脳ドックは、**毎週木・金曜日**となります。
●血管ドックは**毎週木曜日**に実施致します。
　血管ドックには、**肺癌検診（肺CT検査）**が含まれます。
　なお、複数回の来院が必要となります。

その他

大腸CT検診…… 28,000円

社会医療法人 清風会
五日市記念病院
日本脳ドック学会認定施設
〒731-5156　広島市佐伯区倉重1-95

ドックについての
お申し込み・お問い合わせは
TEL
082-924-2211

検査項目	脳ドック		血管ドック		脳+血管ドック
	A	B	C	D	E
身長・体重・血圧・腹囲	○	○	○	○	○
視力	○	○	○	○	○
聴力	○		○		○
頭部MRI	○	○			○
頭部MRA	○	○			○
頚部MRA	○	○			○
冠動脈CTA			○	○	○
体幹部CT			○	○	○
体幹部CTA			○	○	○
血液検査・尿検査	○		○	△※	○
便潜血	○		○		○
心電図	○		○	○	○
胸部X線	○		○	○	○
骨密度測定	○		○		○
脈波図			○	○	○
眼底検査	○		○		○
頚動脈エコー	○	○	○	○	○
長谷川式簡易知能評価	○	○			○
内臓脂肪測定（CTによる）	○		○		○
肺癌検診（肺CT検査）			○	○	○

※△：採血によるクレアチニン検査のみ

五日市記念病院のご案内

一次脳卒中センター（PSC）※

脳神経外科を中心に全身管理のできる急性期救急病院

所在地　広島市佐伯区倉重1丁目95　TEL：082－924－2211

診療科目　脳神経外科、内科、循環器内科、血液内科、外科、整形外科、リハビリテーション科、脳ドック・血管ドック

総病床数　180床（一般病床100床（地域包括ケア28床）、回復期リハビリ病棟80床）

外来診療時間　午前9時～午後1時（受付時間：午前8時30分～午後12時30分）
午後2時30分～午後5時30分（受付時間：午後2時～午後5時）

休診日　土曜日午後・日曜日・祝日、8月15日、年末年始（12/29～1/3）

最新の外来受診のご案内はこちらから

●外来診療スケジュール並びに担当医師

（令和3年1月1日現在）

		月曜		火曜		水曜		木曜		金曜		土曜
		午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前
脳神経外科	初診	向田		坪井		交替制		梶原（洋）		茶木		第1片桐※1 第2･4･5光原 第3交替制
	再診	坪井 梶原（洋）		向田 梶原（洋）		茶木 梶原（四）		向田 茶木		向田 梶原（四）※2		第1･2･3･4交替制 第2･4･5梶原（四）
整形外科							平松					
内科		印具 藤田	黒木※3 土井	黒木 印具	藤田※4	土井 印具	黒木	黒木 土井	藤田	菊地 藤田	印具	瀬山 交替制
血液内科		許		許		許		許 名越	許	許		許 第1･3･5樗木 第2･4吉田
循環器内科		湯谷		湯谷 林		免出		免出		湯谷		交替制
脳ドック					梶原（四） 印具			検査日		検査日		
血管ドック					林			検査日				

※1 第1土曜日午前、片桐は機能脳外科外来を行っています。　※2 第3土曜日前日の金曜は休診。
※3 月曜日午後、黒木にて癒し外来を行っています。　※4 火曜日午後、藤田にて禁煙外来を行っています。

脳神経外科初診外来

※五日市記念病院は、令和元年9月1日、日本脳卒中学会より、「一次脳卒中センター（PSC）」の認定を受けました。

アクセス

自家用車

患者様用駐車場141台
JR五日市駅より10分

公共交通機関

●JR五日市駅北口よりバス
（薬師が丘、彩が丘団地、藤の木団地行き）
地毛（じげ）バス停下車、徒歩5分

●広島電鉄楽々園駅よりバス（湯来温泉行き）
地毛（じげ）バス停下車、徒歩5分

●広島バスセンターよりバス
（東観音台、薬師が丘、彩が丘団地、藤の木団地行き）
地毛（じげ）バス停下車、徒歩5分

●広島バスセンターよりバス（四季が丘、阿品台行き）
波出石（はでいし）バス停下車、徒歩3分

廿日市記念病院のご案内

心を重視したホスピスと総合リハビリテーション病院

所在地	廿日市市陽光台5丁目12　TEL：0829－20－2300
診療科目	脳神経外科、外科、内科、循環器内科、呼吸器内科、リハビリテーション科
総病床数	126床（回復期リハビリ病棟60床、療養病棟42床、緩和ケア病棟24床）
外来診療時間	午前9時～午後1時（受付時間：午前8時30分～午後12時30分）
休診日	土曜日・日曜日・祝日、8月15日、年末年始（12/29～1/3）

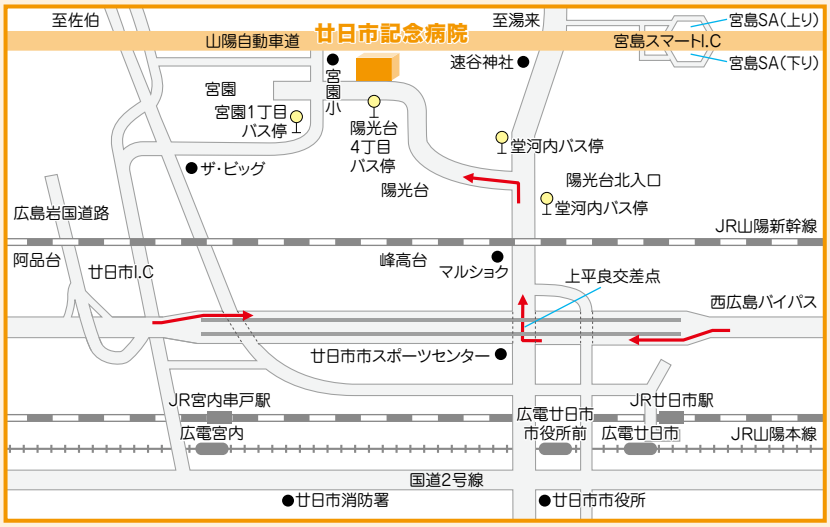
最新の外来受診のスケジュールはこちらから

●外来診療スケジュール並びに担当医師

（令和3年1月1日現在）

	月曜（午前）	火曜（午前）	水曜（午前）	木曜（午前）	金曜（午前）
脳神経外科	梶　原※1	浅　野	浅　野	梶　原※1	浅　野
内　科		益　田			
循環器内科		免　出※2			
呼吸器内科	中　川				三　浦
緩和ケア			番匠谷	髙　橋	

※1 月・木曜日の脳神経外科の診療は、9時30分から。　※2 火曜日の循環器内科の診療は、10時から。



アクセス

自家用車

患者様用駐車場62台
JR宮内串戸駅または広電宮内駅より10分

公共交通機関

- JR宮内串戸駅または広電宮内駅よりバスで宮園1丁目バス停下車、徒歩4分（宮園、四季が丘行き）
- 広電廿日市市役所前駅よりバスで堂河内バス停下車、徒歩5分（原、川末行き）
- 広電廿日市市役所前駅よりさくらバス（西循環）で陽光台4丁目バス停下車すぐ

法人の理念

私たちは『医療は仁術』であり、
『病院はサービス業』であることを忘れず、
『社会に望まれる医療』の実現を目指して、
より良質で、温かく心の通った医療を提供します。

□私たちは、患者さまを守ります
□私たちは、思いやりを大切にします
□私たちは、誠実な医療を目指します
□患者さまには人格の尊重を、
病気に対しては厳しい目をもって
より良い医療を目指します

年間行事

令和2(2020)年7月～令和2(2020)年12月

7月	1日	清風会　開設記念日
	3日	法人内学会(グランドプリンスホテル広島)　※中止
	15日	夏季賞与　支給
9月	26日～27日	4年目研修(淡路・鳴門)　※中止
12月	12日	法人忘年会(グランドプリンスホテル広島)　※中止
	15日	期末賞与　支給 成果賞与　支給
1月	31日～3日	佐伯区医師会　定点診療(広島市年末年始救急医療協力病院・五日市記念病院)

※新型コロナウイルス感染防止のため

編集後記

昨年テレビ取材を担当した際に、手術シーンを撮影させていただきました。
普段、事務職員の私が手術に入ることはありませんので、手術室に入るのはもちろん撮影も初めてです。緊張して周りに迷惑をかけたかと思いますが、看護師・臨床工学士・検査のみなさんがとても優しく、貴重な体験をさせていただきました。
精確に手術を進めていく先生を間近で見たり、インタビューを受けてくださった患者さんとお話させていただいて、「うちの先生はすごい！」と改めて感じました。この感動をたくさんの方に知っていただきたいと思い、医師だけでなく全ての職員の“すごいところ”をお伝えできる機会を作りたいと考えています。

(庶務課 藤岡 恵美)

今年はコロナに振り回された一年でした。
感染対策を含め生活様式が今までと異なりこれまでの生活を見直す機会になった一年でした。一年前の生活が懐かしく思います。今まで通りといきませんが少しでもコロナに振り回されない生活が出来るように早期沈静化を願うばかりです。

(庶務課 光原 誠人)

社会医療法人
清風会
第66号 2021年1月1日

管理本部
〒731-5156
広島市佐伯区倉重1丁目95
TEL (082)943-7725
FAX (082)921-0104
URL https://www.seifu.or.jp
E-mail kannri@seifu.net

五日市記念病院
TEL (082)924-2211
FAX (082)924-8111
URL https://www.seifu.or.jp/imh/
E-mail imh@seifu.net

廿日市記念病院
TEL (0829)20-2300
FAX (0829)20-2301
URL https://www.seifu.or.jp/hmh/
E-mail hmh@seifu.or.jp